



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2020年6月14日(日) 9:30~12:00 (雨後曇り)

参加者 一般:3名(うち中学生2名)、

指導員:3名

テーマ 「梅雨時の花」

4 カ月ぶりの観察会の再開のため、直前にメールや電話でお知らせしていたところ、雨天でしたが6名が参加してくれました。

新型コロナウイルスの感染防止のためマスクを着用し、アルコール消毒薬や体温計を持ってきた観察会です。

公園の閉鎖期間中に川原の芝生部分や堤防法面の草がしっかり刈られて、観察できる草の種類がずいぶん減っていましたが、それでもカワラサイコやヒナギキョウが残って咲いていました。目立ったのは鮮やかな黄色の大きな花をつけたオオキンケイギクや、草刈後に花径を伸ばしたブタナ(花は終わりがけ)です。これらの外来種は葉がロゼット状で草刈りに強く、成長も早いのですね。

大野極楽寺公園では、先月、花を付けていたハクウンボクは既に房状の実となっていましたし、ハンゲショウやノアザミの花が目立ちました。ちょっとした間に季節の移り変わりが感じられます。ハンゲショウは半夏生(夏至から11日目)で今年(7月1日)の頃咲くことから、あるいは花の近くの葉が半分白くなること(半化粧)から名付けられたと言われています。

この日一番盛り上がったのは、オオスズメバチを見た時です。樹液に集まるサトキマダラヒカゲを見ていると、近くのコナラの枝にペットボトルを利用した蜂トラップが設置してあり、中に大きなスズメバチ数匹が入って、そのうち2匹は元気に動いていました。体の大きさからしてオオスズメバチでしょう。さらに近くの木の根元でも1匹が樹液をなめていました。こんな近くで見ることは滅多にありません。オオスズメバチは刺されると危険な昆虫ですが、巣の近くではないので、刺激しないよう気を付けながら、怖いもの見たさでしっかり観察し、体の模様も確認できました。

10時半過ぎから雨が小降りになると、堤防法面でツバメシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウなどのチョウが飛び始めました。モクバラの池の縁では羽化して山に移動する前の未熟なアキアカネも羽を休めていました。来月はセミやトンボなどが増え、いっそう多くの生き物と出会うことができることでしょう。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥:ツバメ、ムクドリ、キジバト、ヒヨドリ、カワウ、ゴイサギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(声)、ウグイス(声)、オオヨシキリ(声)、ホオジロ(声)、コジュケイ(声)

虫:ナミアゲハ、ヒメジャノメ、ツマグロヒョウモン、トンボエダシャク、シオカラトンボ、クロスジギンヤンマ、ホソミイトトンボ、オオヒラタシテムシ(幼虫)、ショウリョウバッタ(幼虫)

花:クスタマツメクサ、シロツメクサ、セイヨウミヤコグサ、コメツブウマゴヤシ、ヒメジョオン、コウリリナ、ドクダミ、ユウゲショウ、コマツヨイグサ、ミナトマツヨイグサ、ネジバナ、メリケンムグラ、オオハコ、ヤブジラミ、ネズミモチ、モクゲンジ



(蜂トラップの中のオオスズメバチを観察中)



実ができていたハクウンボク



ハンゲショウの花と半分白い葉



すごい迫力のオオスズメバチ



避暑に行く前のアキアカネ